



# “冬” に備える

～きめ細やかな除排雪を目指して～

今年もいよいよ本格的な冬が到来し、同時に降雪期も迎えようとしています。町では、町民のみなさんの安定した日常生活を守るため、毎年的確な除排雪に努めています。また、町民の共助のしくみによる除雪体制の確保も図られています。今回は、こうした除排雪対応の状況などを紹介しながら、改めてこれからの冬に備える取り組みの重要性を考えます。



## 特集 “冬”に備える ～きめ細やかな除排雪を目指して～



### 昨年度の豪雪と 道路除雪

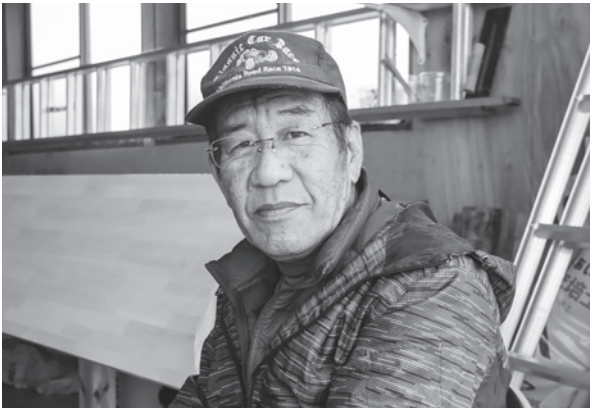
令和6年度において本町で観測された最大積雪深（山形地方気象台小国観測所）は263cmでした。過去30年における各年の最大積雪深の平均値が172cmであることから、昨年度は数字の面からも豪雪であったことがわかります。また、山形県内では、除雪時の屋根などからの転落や落雪による人的被害、屋根への積雪による建物倒壊などといった建物被害などが多く発生しました。こうした状況から本町では、豪雪対策本部を設置し、被害の防止と軽減に向けて情報共有をしながら、適切な対策にあたりました。

全国的にも豪雪地帯といわれる本町では、昨年度のような豪雪のもとでも、通勤・通学や買い物といった日常的な暮らしを送ることがで

きるよう、冬季間、町道の除排雪作業に取り組んでいきます。また、町だけでなく、地域住民や団体が連携した活動を展開し、町内道路や住宅周辺などの除雪を行っています。

現在、町道の除雪については毎年更新する町道除雪計画に基づき、「15cm以上の降雪があった場合又は降雪が予想される場合に指定路線の除雪を行う」とし、バス通行路線は午前6時、幹線町道・通勤通学路線は午前7時、公共施設は午前8時までの作業完了を目標として作業を行っています。こうした道路除雪を支えているのが、大型機械で除雪活動を行う除雪オペレーターのかたちです。降雪期において町が直接雇用し作業にあたっている直営オペレーターの本間定国さん（幸町）に、道路除雪についてお話をうかがいました。「除雪作業中は安

## 特集 “冬” に備える ～きめ細やかな除排雪を目指して～



▲本間定国さん

全第一に、事故を絶対に起こすことのないよう気を配りながら作業を行っています。除雪オペレーターは、様々な状況に対応する臨機応変さが必要であると感じます。毎日、雪の量や積もり方は違うため、その場に応じた機械操作が求められます。除雪を行うにあたって、町民のみなさんには、道路を走ったり歩いたりされるかた全員が安心して通れるよう、夜間の駐車場において車を残しておくなど除

雪の妨げとなるようなことがないように心がけてほしいと思います。今年の冬も、道路のすみずみまで丁寧に除雪を行っていきますので、ご協力をお願いします。」

### 「除雪協力会」 による助け合い

本町中心部においては、住宅が密集していることから、除雪を行った後の雪捨て場を確保することが難しく、一方で除雪を行わなければ道路に出ることが難しい状況になることも想定されます。こうした状況を踏まえ、町中心部に居住する住民のかたが一体となって発足したのが「小国町除雪協力会」です。本町に記録的な豪雪被害をもたらした昭和38年1月の「38豪雪」をきっかけとして翌年昭和39年に発足した除雪協力は、道路除雪を町が行い、屋根や住宅周辺の除雪は住民が行うといった独自



▲小国町除雪協力会の小林新太郎会長

の制度を設け、排雪を行うダンプトラックの費用を会で負担することとしています。この制度について、除雪協力会会長を務める小林新太郎さん（小国町）は「除雪協力会は、住民自らが冬を乗り越えるために作られ、今日にいたるまで活動が行われていきます。除雪に対する住民の要望は車社会が一般化し、車が通勤や買い物足として使われるようになった昭和50年ごろから顕著になりました。

た。協力会としてはこうした声に、住民側が自主的に応えることも地域の一員として果たすべき役割であると考えています。近年は発足当時の、『自分たちで自分たちの住宅や道路を何とかする』という考えが薄れているように感じられる場面もありますが、住民のかたのご理解を得ながら、引き続き官民一体の除雪活動を行っていききたいです。」とお話いただきました。

また、住民のかたによる共助の除排雪の仕組みの一つとして、本町では、主に住宅地を中心として、自然の流水を利用し雪を流す流雪溝が大きな役割を果たしています。町内中心部では小坂町・幸町・町岩の3つの地区において流雪溝組合が組織され、流雪溝を利用するかたが一体となって、安全かつ効率的な利用ができるよう活動しています。



## 暮らしを守る除雪

毎年の除雪は積雪量が多いときや、屋根に上って行うときなど、身体の負担が大きくなることに加え、落雪や落下などによる事故の危険性もあります。このため町では、病弱などのために自力で除雪を行うことができないかたに対して、生活援助員を派遣し、除雪支援を行っています（対象者・町民税が世帯非課税の65歳以上のひとり暮らし高齢者または高齢者夫婦世帯、肢体不自由の理由により身体障がい者手帳の交付を受けているかた）。本制度を利用してはいる新野サキさん（岩井沢）は「10年ほど前からこの制度を利用しています。除雪は主に、玄関の前と屋根を中心をお願いしています。玄関については、毎日除雪を行っていたので外出の際も大変助



▲住宅周辺にも雪の壁ができ除雪が必要となる

かっています。昨年度は多くの雪が降ったことから屋根にも多くの雪が積もり何度も除雪が必要となる場面がありました。このように私たちの力では対応が難しいときでも作業をしていただけるのありがたいです。今年も利用したいと考えています。」とお話いただきました。

## よりよい除雪のために

豪雪地域の本町において、冬季の除雪は町民の生活を

守るライフラインの一つであるといえます。一方で、近年は除雪を支える除雪オペレーターなどの人材が不足している課題も抱えています。こうしたことを踏まえ、町では、除雪オペレーターの人材を確保し、安定した除雪体制の構築に向け、町が管理する道路の除雪を行う事業者に対し、除雪オペレーターを育成するための大型特殊免許取得にかかる費用等を補助する制度を設けています。

また、町では、本年度老朽化した小型ロータリー除雪車1台の更新を行うこととしており、快適な生活を確保するための除雪体制の整備に活用することとしています。これらを含め、町道の除排雪経費など多くの経費を投じて冬季間における町民生活の安定に努めています。

町では引き続き、町民のかたや関係団体と協力し、連携

を図りながら、冬でも安心して安全に暮らすことができる除排雪の取り組みを展開していきます。一方、冬は個人での屋根や道路の除雪作業中の事故が多く発生します。町民のみなさんには、除雪中の事故に十分留意していただくとともに、積雪が増える前に、計画的に除雪を行っていただくなど、早めの行動をとっていただくようお願いいたします。



▲本町除雪の拠点となる「小国町除雪センター」